

し。

〔論語集解義疏八〕孔子曰見善如不及見不善如探湯○中疏云見不善如探湯者若見彼不善者則湯爲也湯○中疏云見不善如探湯者若見彼不善者則湯爲也

手探於沸湯爲也

〔鹽尻 四十七〕沸湯を探り火を握らしめて虚實を驗み侍るは吾邦上古よりありて探湯の誓ひ盛んに行はれし事日本紀等に見え侍りされば義楚が西域の古法成よしをしるし侍る南齊書には扶南國の風俗をくはしくのせ侍る皆外國の業にぞ

〔日本書紀 應神 九年四月〕遣武内宿禰於筑紫以監察百姓時武内宿禰弟甘美内宿禰廢兄卽讒言于天皇武内宿禰常有望天下之情○中略時武内宿禰獨大悲之竊避筑紫浮海以從南海廻之泊於紀水門僅得逮朝乃辨無罪天皇則推問武内宿禰與甘美内宿禰共出于磯城川濱爲探湯武内宿禰勝之勅之令請神祇探湯是以武内宿禰與甘美内宿禰共出于磯城川濱爲探湯武内宿禰勝之

〔古事記 九下 恭〕於是天皇○九恭愁天下氏氏名名人等之氏姓忤過而於味白禱之言八十禍津日前居玖訶瓮而玖訶二定賜天下之八十友緒氏姓也

〔古事記傳 三十九〕玖珂瓮玖珂玖珂は書紀に盟神探湯此云區訶陀智とある如く熱湯中に手を漬探りて神に盟ふ事をするを云陀智は役などの陀智にて凡て其事に趣くを某に立とも某立とも云

を清て讀は非なり○中略湯を探り垂仁卷に中臣連祖探湯主と云人名も見ゆ日本紀竟宴集に此天て誓ふ事から書にも見えたり○中略垂仁卷に中臣連祖探湯主と云人名も見ゆ日本紀竟宴集に此天太知支與介禮波爾己禮留多見毛可波禰數末之幾また萬賀布宇智遠久可倍溫須惠傳和玖能美箇王多濃常摩讀部安羅波禮仁計驥かの武内宿禰を川久之弊天久可多智世之爾支與支見波武與乃頌め良爾都瓮は其探湯立の湯を沸す釜なり閉と云は此類の器の惣名にて加那閉は金瓮か弊支爾計利瓮は其探湯立の湯を沸す釜なり閉と云は此類の器の惣名にて加那閉は金瓮と云名多さてかく其瓮を居たることばかりを云て探湯せし事をば略きて云ざるは古文のさまなり

〔日本書紀 九十三 四年九月戊申〕詔曰群卿百寮及諸國造等皆各言或帝皇之裔或異之天降然三才顯